決算　令和７年度　一般会計歳出106億

令和７年度決算は、一般会計については不認定、国民介護保険特別会計は賛成多数（12：1）で認定、下水道

令和７年度の主要事業　（千円以下四捨五入）

- 物価高騰対策事業……2億5,890万円
- 生涯学習センター大規模改修の実施設計……3,070万円
- ＩＴ・デジタル化関係……9,127万円
- 空き家対策事業の推進……450万円
- 有害鳥獣被害対策事業……174万円
- 耐震改修促進計画の推進……133万円
- 通学路の安全対策……261万円
- （仮称）こども版気候市民会議の開催……6万円
- 消防庁舎大規模改修事業……3億5,859万円
- 新庁舎整備事業……1億5,636万円
- 道路環境の整備……6,195万円
- こどもの権利条例策定とこども会議の開催……31万円
- 産後ケアと女性の健康づくり事業……21万円
- まちづくり総合調整事業……13万円
- 地域公共交通推進事業……13万円

葛川に箱わな設置
（有害鳥獣被害対策事業）

こどもまんなかに
住民と職員が協働
（こども版気候市民会議）

令和７年度決算（概要）※

区　分		歳　入	歳　出	歳入―歳出
一般会計		114億4,447万円	106億3,629万円	8億818万円
特別会計	国民健康保険	26億9,124万円	26億3,255万円	5,870万円
	後期高齢者医療	11億2,528万円	11億1,591万円	937万円
	介護保険	31億5,179万円	30億7,522万円	7,658万円
計		184億1,278万円	174億5,997万円	9億5,282万円

下水道事業会計	収入	支出
収益的収支	7億9,136万円	7億5,784万円
資本的収支	4億4,581万円	6億8,547万円

※千円以下を四捨五入していますので、合計が合わないこともあります。

審査意見

1．ラディアン閉館中の代替施設のさらなる確保と図書館機能においては、駅などへ返却ポストの設置等、町民の利便性の向上を図られたい。
2．ガラスのうさぎ像平和と友情推進事業は、その理念を継承し、故高木敏子氏の足跡を振り返る事業を検討・実施されたい。
3．町の活性化のため、二宮高校の魅力増進に向け、応援体制の強化を図られたい。

3,629万円不認定!!　賛成6 反対7

健康保険特別会計は全員一致で認定、後期高齢者医療・事業会計は賛成多数（9：4）で認定された。

決算に対する討論（一般会計に対する討論）

賛成

更新された消防庁舎は職員のメンタル、仕事の効率に想定以上の効果。新庁舎の複合的な効果を再評価、まい進せよ。こども家庭センターの相談業務はさらに充実するため住民団体と協働、学校内相談との連携は作業療法の展開を。図書館リビング化は町民専門家やパブコメ生かせ。ラディアン休館中は現庁舎３階の議場や会議室を使い倒すべき。（一石）

町制施行90周年の節目に様々な施策を進め、特に新庁舎整備は、大規模災害時にも行政機能を維持し、町民の生命と財産を守るため重要な基盤整備。老朽化した現庁舎の環境改善と、職員が継続して町民サービスを担うためにも必要だ。また消防庁舎改修、妊娠期からの切れ目ない子育て支援、教育環境整備、高齢者の医療・介護を支える財政措置を評価。（小笠原）

反対

担い手不足・学童保育の待機児童・空家対策など、くらしを支える点での弱さ。こどもの権利条例制定の取り組みで広がりが限られている。ゼロカーボン目指す柱が見えない。下水道事業戦略でウォーターＰＰＰの検討は問題。地域集会施設の耐震化向上や消防庁舎大規模改修事業、通所型の産後ケアの開始、帯状疱疹予防接種など諸施策は評価。（渡辺）

令和７年度決算は黒字であったものの、若い職員による横領という重大な不祥事が発生し、財務情報の前提となる内部統制の弱さが明確になった。横領は単なる不適切行為ではなく、出納管理・決裁・チェック体制といった、財務情報の監理プロセスが機能せず、信頼性を損なった状態では適正な決算と認めることができず、今回は反対とした。（岡田）

洪水浸水想定区域に隣接し土砂災害警戒区域内での庁舎建設は本末転倒。コスト高で事業費は40億円に増額。うち半分は償還30年の地方債で子供たちに借金のツケを残すことに。雨漏りを含む既存施設劣化は建築基準法の指摘を無視し続けた結果と判明。ラディアンホールの代替になり得た町民センターホールは劣化により使用できず。（松﨑）

消防庁舎の機能強化や子育て施策など成果は評価する。一方、新庁舎建設は災害リスクを抱える立地や事業費増大に懸念がある。現庁舎では非常用照明等の点検不備が判明。雨水貯留槽は災害級豪雨時の葛川溢水対策として効果が見込めない。危機管理や施設管理に重大な課題を残したまま決算を認定することは、問題点の追認となるため反対。（浜井）

令和６年の浸水に対するリスク軽視は行政中枢の判断力欠如を表している。東大跡地事業の停滞は失政であり運営者に押し付けるのは無責任。最優先課題を放置し新庁舎建設を優先する姿勢は優先順位の判断を欠く。質問に答えず説明責任を放棄する姿勢は職員に対して不誠実であり、組織の長として誠実さやリーダーシップの欠如が危ぶまれる。（大沼）

消防力向上に多面的効果（新たな訓練施設）

4．介護、保育士人材の確保・育成について、多様な施策を進められたい。
5．産後ケアと女性の健康づくり事業は、より多くの方が利用できるよう工夫を重ね、さらなる充実を図られたい。
6．空き家対策については、空き家そのものを減らす努力をされたい。
7．全町民が参加できるスポーツイベントなどの事業を実施されたい。